

## 大学生のソーシャルメディアの利用状況と ソーシャルサポートの可能性

### How often university students use the Social Media?

西端 律子, 良原誠崇  
Ritsuko NISHIBATA, Masataka YOSHIHARA  
畿央大学教育学部  
Faculty of Education, KIO University  
Email: r.nishibata@kio.ac.jp

**あらまし**：ソーシャルメディアに関する先行研究を概観するとともに、畿央大学生を対象にソーシャルメディアの利用実態および友人関係に関する調査を行い、1436の有効回答を得た。その結果、多くの学生が利用している SNS、学年進行とともに利用が増えるマイクロブログなどの実態を明らかにした。また、友人関係に関する調査では、大学以外に気のおけない友人を持っている学生が 277 人いること、大学には知人や友人がいない学生が 682 人いるという結果になった。今後、ソーシャルメディアの利用実態調査を継続し学生指導に活かす他、学生のメンタルヘルス向上のためのソーシャルサポートとしてのソーシャルメディアの利用を検討する。

**キーワード**：ソーシャルメディア、友人、オンライン、SNS、ソーシャルサポート

#### 1. はじめに

携帯電話の普及および SNS のユーザ増加に伴い、オンライン（ネットワーク上）の人間関係も増えてきた。総務省の調査によると、2009 年の SNS 会員数は約 7,134 万人に達している<sup>1)</sup>。同調査によると 2005 年には 111 万人、2007 年には 1,042 万人であり、このわずか 4 年で 70 倍になったことがわかる。

一方、大学生には心理社会的なストレスや職業的不安などがあり、各大学で独自のプログラムを開発したり、ソーシャルサポートの影響を分析したりなどの研究が行われている<sup>2),3)</sup>。なお、ソーシャルサポートとは物質的な援助ではなく、人間関係によってもたらされる援助のことである。また、福岡は大学生 377 人に調査を行い、「日常ストレス状況で、多くの大学生は親しい友人からのソーシャル・サポートを受けており、その量はストレス度が高まるほど多くなる傾向にある（福岡 2010, p.325）」ことを明らかにしている<sup>4)</sup>。

よって、本研究では大学生のソーシャルメディアの利用実態を明らかにし、ソーシャルサポートとして、ソーシャルメディアの利用の可能性について検討することを目的とした。

#### 2. 方法と対象

K 大学大学生（1～4 回生）を対象に、2011 年 8 月から 9 月に質問紙調査を行い、回収されたアンケート

のうち何らかの欠損値が認められたケースを完全に除外し、残った有効回答数（1436、有効回答率 97.24%）を対象に分析を行った。学年別の内訳は、1 回生：457 人、2 回生：352 人、3 回生：300 人、4 回生：327 人である。

本調査において、ソーシャルメディアは主にインターネットを通じて、多数の利用者がお互いに情報を発信しあうサービスと定義した。また、ソーシャルメディアの種類として、総務省の「ソーシャルメディアの利用実態に関する調査研究の請負報告書<sup>1)</sup>」を参考に、以下の 8 種類とし、学生がわかりやすいように例を挙げた。

- (1) ブログ（Ameba ブログ、Yahoo ブログなど）
- (2) SNS（mixi、Facebook など）
- (3) 動画共有サイト（Youtube、ニコニコ動画など）
- (4) 情報共有サイト（Wikipedia、Cookpad など）
- (5) マイクロブログ（Twitter など）
- (6) 掲示板（Yahoo 知恵袋、2ちゃんねるなど）
- (7) ソーシャルゲーム（Gree、モバゲー、PSP や DS の通信対応ゲーム含む）
- (8) コミュニティ放送（地域のミニ FM、ケーブル TV など）

#### 3. 結果

ソーシャルメディアの種類別の回答を表 1 にまとめる。ほぼ毎日利用のヘビーユーザをみると、SNS

表1 ソーシャルメディアの利用状況

	ブログ	SNS	動画共有 サイト	情報共有 サイト	マイクロ ブログ	掲示板	ソーシャル ゲーム	コミュニ ティ放送
利用していないか 月に1回未満	670	349	99	223	903	680	823	1,140
月に1回程度	91	40	130	250	65	261	122	79
月に2～3回程度	91	52	232	395	52	205	128	72
週に1, 2回程度	128	55	377	344	63	147	101	56
週に3, 4回程度	147	79	305	149	71	75	90	39
ほぼ毎日	318	869	301	84	291	76	181	59

が非常に多く、次いでブログ、動画共有サイト、マイクロブログとなっている。一方、利用していないか、月に1回程度の非登録もしくはノンアクティブユーザ（登録したのみでほとんど使っていない）ユーザをみると、コミュニティ放送、マイクロブログ、ブログとなっており、ブログとマイクロブログはほぼ毎日使っている学生と、利用していないか月に1回程度しか使わない学生とに分かれていることがわかる。一方で、すべてのソーシャルメディアについて利用していないか月に1回未満と回答した学生も24人（約1.7%）おり、すべての学生が利用しているわけではないことを見逃してはならない。

各ソーシャルメディアの利用状況の特徴は以下のとおりである（紙面の都合上、一部割愛）。

SNSはどの学年も半分以上の学生がほぼ毎日利用している。ほぼ毎日利用している学生と、ほとんど利用していない学生の割合は3弱：1程度であり、学年によってほぼ違いはないが、利用していないか、月に1回未満という割合が2年生が一番多い。

動画共有サイトは利用頻度が各学年ともばらつきがあり、週に1, 2回程度以上は半分以上の学生が見ていること、また、各学年ともほぼ20%の学生はほ

ぼ毎日利用している。

情報共有サイトは利用頻度が各学年ともばらつきがあるが、1年生から3年生まで利用していないか、月に1回未満の利用の学生が減っていることが分かる。

マイクロブログの学年別の利用頻度の割合を図1にまとめる。利用

していないか、月に1回未満の利用の学生が各学年とも半数を占めている（1年生は約73%）が、学年があがるにつれ利用する学生が増え、それもほぼ毎日利用のヘビーユーザが増えていることが分かる。

#### 4. まとめと今後の課題

調査の結果、多くの学生が利用している SNS、学年進行とともに利用が増えるマイクロブログなどの利用状況が明らかになった。

今後、定期的にソーシャルメディアの利用実態を調査し、学生の日常生活におけるコミュニケーション手段を把握し学生指導に活かすとともに、オンラインやオフラインの「友人」がソーシャルサポートとして成立するのかを検討し、学生のメンタルヘルス向上に役立てていきたい。

また、学生の利用頻度が高い SNS とマイクロブログに焦点をあて、就職活動を目前に控えた3年生を対象により詳細な調査を開始している。

#### 参考文献・参考資料

(1)総務省情報通信政策研究所：ブログ・SNS の経済効果に関する調査研究. (2009)

<http://www.soumu.go.jp/iicp/chousakenkyu/data/research/survey/telecom/2009/2009-I-13.pdf>

(2) 安藤美華代：大学生の情緒的および行動上の問題を予防する心理教育的プログラム、岡山大学大学院教育学研究科研究要録第147号, 113-123. (2011)

(3) 赤田太郎, 若槻優美子：職業的不安に対する大学・短期大学のキャリア教育の現状と課題, 龍谷紀要第33号第1号, 77-88. (2011)

(4) 福岡欣治：日常ストレス状況体験における親しい友人からのソーシャル・サポート受容と気分状態の関連性, 川崎医療福祉学会誌第19号第2巻, 319-328. (2010)

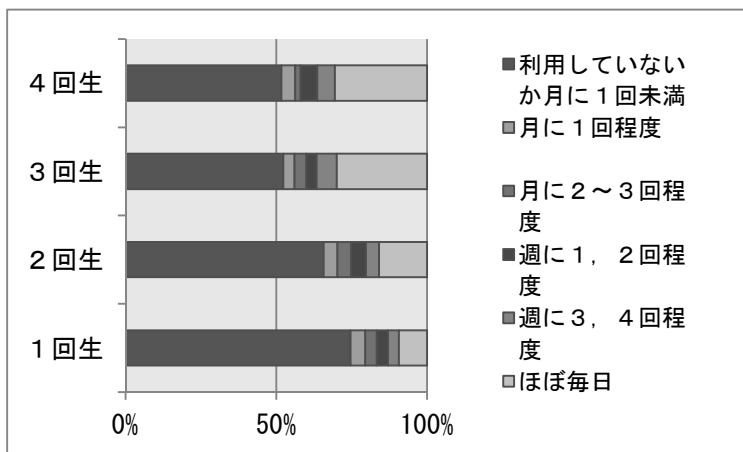


図1 マイクロブログの学年別利用頻度 (割合)